

枚方市駅前行政サービスの再編に向けた考え方（案）

1. 目的及び効果

- 枚方市駅前の利便性を活かし、現在実施している行政サービスを今後も継続するとともに、公共施設マネジメントの推進の観点や財政状況を踏まえながら、新庁舎整備と連携し各種施設が抱える課題解決を図る。
- 高齢者をはじめ、妊娠期から子育て期に至る行政サービスを一体となって提供する拠点を整備することで、枚方市駅周辺の魅力や行政サービス、市民の安全性・利便性の向上を図る。

2. 具体化に向けた考え方

- 現状の市駅前行政サービスを安定的に継続する、まちの魅力を高めるといった観点から、市街地再開発事業によるまちづくりの取り組みが進んでいる③街区を前提に検討を進める。
- 具体的には、図書館と生涯学習市民センターの機能連携に加え、市民窓口の機能を拡充するとともに、子ども・子育て・高齢者への支援や相談などの各種機能や検討されている民間施設もあわせて、効果的に連携することで行政サービスの質の向上を図る。

（諸室の効率配置と機能連携）

- ・市民の利便性の向上、全体規模の抑制を図るため、集約する施設が連携し、待合スペース等を共有化することなど、安全性も踏まえながら効果的・効率的な配置とする。

（図書館と生涯学習Cの連携）

- ・旧市駅前サテライトと同等の分室規模とし、図書館と生涯学習市民センターの連携を図ることで、市駅周辺再整備による新たなまちの姿に応じたサービス提供を目指す。

（手続きの利便性向上）

- ・（仮称）市民窓口で複数の手続きや各種相談、ひとり親世帯に関わる手続きなど、取り扱い手続きが増加することで、高齢者をはじめ幅広い年代を対象とした市民サービスの向上を目指す。引き続き、ICTの活用などにより提供する内容や方策、受付から終了までの手続き時間の短縮に向けた手法などの検討を行う。
- ・保健センターと各施設が隣接することで、高齢者による健康相談や乳幼児健診等で来所した市民からの様々な相談について、関係部署のサービスの紹介・引継ぎを即時に行うことができる。さらに、児童虐待やDVなど継続的な支援にも引継ぎ等ができるなど、より迅速で着実な支援を図る。

（情報発信の強化）

- ・（仮称）市民窓口や生涯学習市民センターのロビーをはじめ、民間施設などを利用して、各種行政サービスの情報発信の強化を目指す。

（公民連携の具体例）

- ・駅前フェスタの開催など、民間との相乗効果が期待できるイベントなどを実施する。